

学校だより

練馬区立大泉学園中学校

発行日 平成29年2月24日(金)臨時号

発行人 校長 桐野 和之

平成28年度・学校評価に関わる

保護者・生徒・教員アンケート結果

学校評価に関わるアンケートのご協力、大変ありがとうございました。いただいたアンケートを分析し、平成29年度の教育活動にいかしていきたいと思っております。今年度のアンケート数は生徒(450)、保護者(320)、教員(22)でした。以下の数値は、⑤すごく思う、④ややそう思う、③あまり思わない、②全く思わない、①分からない、この各質問項目のうち、⑤のすごく思うと、④のややそう思うを合わせて、%で数値を表しました。(生徒アンケートは12までが共通項目です。)

1～4(学力向上)

1 わかりやすい授業を行っている。

生徒	保護者	教員
74.9%	55.0%	95.7%

2 学習の声かけ、個々の学習・指導

生徒	保護者	教員
69.4%	59.1%	95.6%

3 学習の振り返りに対する教え方や教材の工夫

生徒	保護者	教員
70.2%	43.7%	95.6%

4 読書啓発に力を入れている

生徒	保護者	教員
67.5%	53.5%	73.9%

学力向上の主な取り組み

- 教科指導の評価規準の提示と学習の振り返り、くり返し学習
- 日常の机間指導、定期考査前の復習
- 質問週間、夏季学力補充教室の設定と聞きやすい環境づくり
- 生徒の授業評価と授業改善
- 教科独自の補習
- 授業研究
- 本からの挑戦状

分析と対策

保護者の方々の学習に対する数値は残念ながら低い。また、生徒や教員の数値と比較してもかなりの差がある。結果を学校への学力向上に対する保護者の強いニーズと考えます。

特に学習を苦手としている子、わからない事がわからないと言っている子、先生に聞きにくいという子どもの指導について工夫をする必要があります。

これらに対して朝学習の実施、聞きやすい雰囲気や環境づくり。例えば職員室前で個別の質問に対応する等(今も先生方は行っていますが、職員室前に行くと質問できることをPRする等)の環境づくりを確実にやりたいと思っております。

ご家庭にお願いもあります。それはお子さんが学校でどのように学習しているのか。また、学校からどのような課題が出されているのか。授業を参観する中で把握してほしいです。保護者の方々の授業公開時の参加人数は、小学校に比べるとかなり少ないです。お子さんの学習実態も把握したうえで、学習の取り組み方を考えてほしいです。

ノートをしっかりとっていない。先生の指示をしっかりと聞いていないなど、学習の基礎的な事も大切にして分からない事を無くし、生徒のやる気を高めていく必要があると思います。

5～9（健全育成）

5 生徒の基本的な生活習慣の指導

生徒	保護者	教員
82.0%	75.6%	91.9%

6 学校と家庭が連携した指導

生徒	保護者	教員
56.9%	65.0%	95.7%

7 子どもに寄り添ったいじめ防止の指導

生徒	保護者	教員
58.2%	55.1%	95.7%

8 部活動への取組

生徒	保護者	教員
65.1%	51.2%	82.6%

9 子どもの犯罪被害防止、非行防止

生徒	保護者	教員
77.3%	82.2%	86.9%

健全育成に関わる主な取り組み

○生徒理解

- ・教員やSC、心のふれあい相談員による教育相談

○基本的な生活習慣の徹底と規範意識の高揚

- ・生徒会活動、係活動 ・学校行事 ・セーフティー教室、情報モラル講習会
- ・あいさつ、服装、時間厳守、授業規律、給食や清掃の当番活動の指導・食育、食育講座

○いじめ防止

- ・いじめアンケート実施・生徒への声かけやいじめの訴えへの受け止め・生徒会のいじめ防止活動 ・教育相談

○基本的な生活習慣の徹底

分析と対策

基本的な生活習慣の指導、非行や犯罪被害防止に関わる取り組みに対する数値は高いものの、その他の取り組みに対する数値が低いです。特にいじめ防止や部活動に対する数値が低い。

いじめに対しては、学校でもその対応には慎重かつ迅速に取り組みます。また、家庭とも連携します。さらには、必要に応じてSCや心のふれあい相談員と連携した対応も行います。この数値が低いのは生徒理解が不足していると思われるのか、対応の遅さなのか。あるいはSNS等の目に見えないいじめのことを言っているのでしょうか。いじめに対しては、家庭とも連絡を密に取り、迅速に対応し、解決に向けて動きます。

部活動は指導できる顧問が居なければ、いろいろな部を開設することは難しいと考えています。そのために、本校では特に運動部で中体連登録による大会参加と子どもの能力の

発揮や開発ができるよう場を設け、支援を行っています。

10～13(キャリア教育)

10 子どもが主体的に行動しようとする態度や姿勢の育成

生徒	保護者	教員
80.0%	80.9%	87%

11 行事等を通じた協働的な態度や姿勢の育成

生徒	保護者	教員
87.1%	87.2%	100%

12 同窓生や高校の先生の進路講演会、職場(福祉)体験学習など、子どもが将来を意識できる学習

生徒	保護者	教員
70.9%	66.0%	95.6%

13 学校と家庭が連携した進路指導

生徒	保護者	教員
	52.5%	95.7%

キャリア教育に関わる主な取り組み

- 生徒会委員会活動、係活動、当番活動 ○行事・校外学習・運動会・合唱コンクール
- 1年生同窓生による職業講話、2年生高校の先生による福祉講話、3年生進路講演会
- 2年生職場(福祉)体験学習 ○3年生進路説明会 ○三者面談

分析と対策

生徒会、委員会活動、係活動や学校行事等への取り組みに対する生徒、保護者、教員の3者の数値が高いが、子どもが将来を意識できる学習や、家庭と連携した進路指導の数値が低い。

本校のキャリア教育(進路指導を含む)の概要は、学習、生徒会・委員会活動、学級活動、行事等への取り組みを通じて身につけるべき態度や姿勢を育む。(あいさつの励行もその1つです。)特に進路指導は1年生では働くことへの意識を高めるとともに、職業について学ぶ。2年生では実際に働く体験を行う。(もちろん事前の学習を行います。)また、翌年の進路選択を意識した進路学習を行う。さらに必要に応じて各自が上級学校への訪問を行う。3年生では1、2年の学習を踏まえ、高校の先生による進路講演、自らの上級学校訪問と進路選択に向けた取り組み(進路面談を含む)を行います。これらに関して学校がどのような取り組みをしているのか、適切な情報の提供を今後も行います。ただし、その動きは面談であれば保護者に直接伝わりますが、キャリア教育・進路指導はお子さんへの指導です。お子さんともよく話をしたり、相談をしたりしてほしいです。学校からの情報が伝わりにくい面があれば、工夫をします。

本校では長いスパンを考慮したキャリア教育の方向転換を行い、職場体験学習を福祉体験学習に一本化しています。その大きなねらいは、コミュニケーション能力の育成等を中心とした態度や姿勢の育成にあります。高齢者や障がい等をもった方々と接する貴重な体験を通じて、中学校段階で身につけるべき態度や姿勢の育成に力を入れていることにご理解いただきたいです。

14～16(魅力ある開かれた学校の推進)

14 ホームページ、学校連絡メール、学校公開等の情報提供

生徒	保護者	教員
	74.1%	91.3%

15 保護者・地域・生徒の声を大切にする

生徒	保護者	教員
	62.2%	82.6%

16 学校とPTAが協力した学校の情報提供

生徒	保護者	教員
	72.8%	86.9%

魅力ある開かれた学校の推進に関わる主な取り組み

- 学校公開と授業参観の実施
- 学校連絡メールの活用
- 学校ホームページの定期更新
- 各種たよりの発行（学校、学年、学級、保健、図書だよりなど）
- 地域パトロールや行事への参加
- 行事や授業公開日の保護者アンケートの実施

分析と対策

保護者、生徒、地域の声を大切にするに関する数値が低いのは学校からの情報提供が少ないからでしょうか。

学校連絡メールでいろいろな情報を提供することがありますが、これを頻繁に行うと、学校からのお知らせが目がいなくなるのではないかという心配があります。お子さんが配布したお知らせを保護者の方々に届けなかった事により、誤解が生じて学校に苦情をいただく事もありました。配布物に関しては家庭でもご留意いただきたいです。

その他、情報等の提供に関する事は、各種たよりや学校ホームページの定期更新の充実を含め、学校全体の課題として考え、より工夫、充実していくようにしていきたいです。

17～18(小中一貫教育・連携)

17 小中学校のスムーズな接続のための取組

生徒	保護者	教員
	76.9%	91.3%

18 小中一貫教育研究・連携の情報提供

生徒	保護者	教員
	56.3%	78.3%

小中一貫教育・連携に関わる取り組み

- 小中校長連絡会
- 小中連絡会
- 校区別協議会を中心とした小中教員合同研修・協議
- 課題改善カリキュラムの取り組みと見直し
- 小学生の中学校訪問と授業体験
- ポスターセッション（実践校の取組について掲示発表）

分析と対策

小中のスムーズな接続に関する数値は高いものの、情報提供に関する数値が低い。小中の連携や一貫教育に関する情報提供は少ないです。これについては、ホームページに小中一貫教育に関する柱を1月に作成しました。この部分を利用して今後は情報提供の充実に努めていきたいです。また、この小中一貫教育・連携は練馬区教育委員会よりグループ分けを受け、それに則って進めています。グループは学園中と学園小、緑小、そして桜学園で構成されています。まずこのことを知っていただきたいです。しかし、桜学園は小中一貫教育校ですので、必要に応じて連携するようになっていきます。そのため次年度の最初の校区別協議会は桜学園で実施されます。

中学校独自の情報提供にどうしても力が多く注がれ、小中一貫教育に関する情報の提供は少なくなりがちです。次年度はタイムリーな情報提供を出来る限り行いたいです。